

持維状現

打破の二潮流が
妥協結晶して“廣田”
情勢見透す小さい金壺眼

と

新衛公拜辞のため
新規時直しに發足
して後園内閣の首
班は國公の熟慮の末ひに落
着き廣田外相はここに宰相の
印綬を拂び、外交烟から
に脚光を浴びた、外交烟から
首相の出たのは故加藤高明伯
相廣田弘毅氏を奏薦するに落
着き廣田外相はここに宰相の
印綬を拂びこの非常時の舞台
に脚光を浴びた、外交烟から
首相の出たのは故加藤高明伯
公が彼を推したのはたまえ
以來のことであるが西園寺老
翁が彼を推したのはたまえ
である、と言つて彼は東洋
豪傑のタイプでなく身体の
わりに小さな金壺眼でチフ
ト内外の政治情勢を見透す
だけの見識どもつてゐる
理由があり、用意維持と理
狀打破の二潮流の暫定的安
協が“廣田”となつて結晶
されだけに彼の感じは實じ
だ、ここに廣田が現狀維持
の父親が病死したために
妻と男女の幼兒が殉死して
らしく父親のミイラは足を

一大驚異とならう
豪傑のタイプでなく身体の
わりに小さな金壺眼でチフ
ト内外の政治情勢を見透す
だけの見識どもつてゐる
理由があり、用意維持と理
狀打破の二潮流の暫定的安
協が“廣田”となつて結晶
されだけに彼の感じは實じ
だ、ここに廣田が現狀維持
の父親が病死したために
妻と男女の幼兒が殉死して
らしく父親のミイラは足を

講されてゐたものであらう

ちこへて來たものであらう

これが特許のミソだが、悲

かがですナ、こんなのはい

かなか七十七円の登録料が

かかる、列車の兩側を金網張りに

してその羽の色が生々として

る、列車の兩側を金網張りに

してその羽の色が生々として

る、列車の兩側を金網張りに